

資料(Data)

# 社会的事象に関心を持ちメディアを活用しながら 考えを深めることができる児童の育成

—— 5年生社会科における新聞を活用した授業実践を通して ——

**Fostering children interested in social events and utilizing  
the media: learning practice of social studies in the 5th grade  
of Japanese elementary school students using the newspaper**

竹中 麦穂\*  
TAKENAKA-KAWASHIMA,  
Mugiho\*

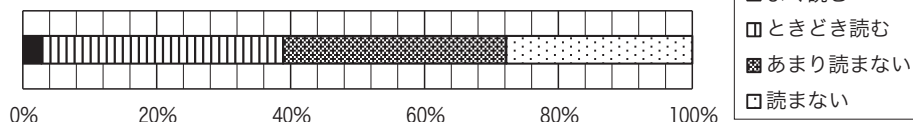
キーワード：社会科，小学校第5学年，新聞

Key words：social studies, 5th grade of elementary school, newspaper

## 1. 主題設定の理由

本校では，3年生以上の各教室に新聞が毎朝一部ずつ届けられる。本学級でも，朝の会で身近な地域の記事について紹介しており，新聞が児童にとって身近なものとなっている。しかし，その中で日常的に新聞を読んでいる児童は少ない。アンケートを実施したところ，「普段新聞をよく読む」「ときどき読む」と答えた児童は全体の4割に満たないことがわかった（資料1）。

資料1 普段，新聞をどれくらい読みますか。

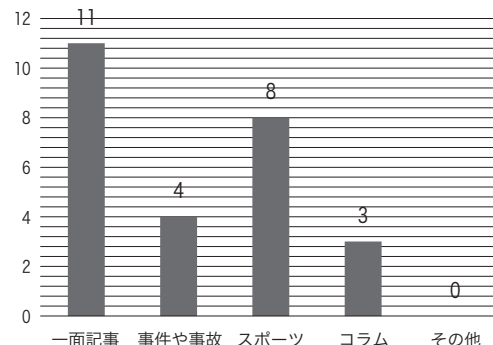


一面記事を目にした児童がニュースについて会話するなど，児童同士の話題のきっかけとなる場面も見かける。しかし，読んでいる児童に「普段どんな記事を読んでいるか」と聞くと，一面記事より先に読み進める児童は少なく，スポーツ記事やコラムなど，選ぶ記事には偏りが見られることがわかった（資料2）。

朝の会で紹介するための記事を探していると，新聞には，人々のくらしや産業の様子など，社会科で学習した内容を含む記事がたくさん掲載されていることがわかる。しかし，

資料2 普段，どんな記事を読んでいますか。

(人 / 複数回答可)



\* 尾張旭市立瑞鳳小学校教諭（紹介者：野崎健太郎，椋山女学園大学教育学部）

児童の実態から考えると、新聞を開いて読み進んでいなければ、そのような教材に児童が主体的に関わる機会は少ない。

学習指導要領における社会科改訂にあたっての基本的な考え方には、「児童生徒が社会的事象に関心をもって進んで関わり」、「それらの意味や働きを多面的・多角的に考え、公正に判断できるようにする」こと、また「社会的な見方や考え方が次第に養われるようにする」ことが要点としてあげられている。さらにそのために「各種の資料を効果的に活用し、社会的事象の意味などを解釈したり事象の特色や事象間の関連を説明したりするなどの言語活動を重視している」ことが記されている。この「社会的事象の意味などを解釈したり事象の特色や事象間の関連を説明したりするなどの言語活動」の中で新聞を効果的に活用することで、児童が自らの考えを深める力を高めることができるのではないかと考え、実践研究を行うことにした。

## 2. 研究の計画

### (1) 目ざす児童像

児童の実態と学習指導要領改訂の趣旨より、次のように目ざす児童像を設定した。

- |  |
|--|
| ①新聞に親しみをもち、日々の興味や疑問から気になる記事を見つけ、読み進めることのできる児童        |
| ②社会的事象に関心をもち、学習したことや調べてわかったことを関連づけて自分の考えを深めることのできる児童 |

### (2) 研究主題

学習内容と実際の新聞記事に関連づけて読み深めることで、社会的事象をより身近なものとして考えることができる。また、児童が自分で記事を選び、記事を読み深めて新たな発見があることで、「自分の力で新しい事実を知ることができた」という自信につながり、より新聞に親しみを持てるようになる。新聞記事を通して、教科書から学んだ内容が実際に社会に直接つながっていることを児童が実感したり、記事を読むことの楽しさを身につけたりできるようになることを願い、主題を「社会的事象に関心を持ち、メディアを活用しながら考えを深めることができる児童の育成」と設定した。

### (3) 研究主題に対する考え方

- ① 「メディアを活用しながら」の「メディア」とは、従来のテレビ・ラジオ・雑誌・新聞に加え、現代生活の中心となっているインターネットによる「ウェブメディア」も含んで考える。本研究の中では「メディア」を多面的に活用していくことへの入り口として、新聞を取り扱うこととする。

- ② 「考えを深める」とは、知識や学習した内容と新聞記事の内容を関連づけ、共通点を発見したり何か新しいことに気づいたりして、多面的・多角的に物事を考えられることとする。

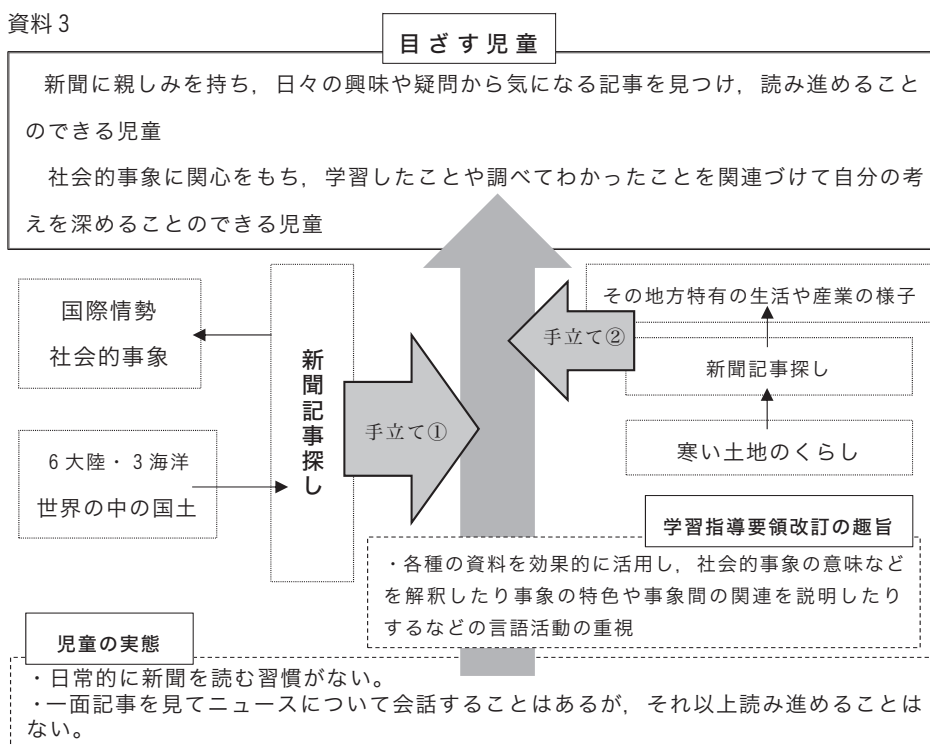
#### (4) 研究の仮説

児童の実態や教師の願い、学習指導要領の改訂の趣旨から考えた「目ざす児童像」に近づくために、次のように研究仮説を設定した。

社会科の授業において、多面的・多角的に新聞を取り入れた資料活用の活動すれば、児童が社会的事象に興味を持ち、メディアを活用しながら自分の考えを深めることができるようになるであろう。

#### (5) 研究の構想

資料3



#### (6) 研究の手立て

仮説を検証するために、具体的手立てを次のように考え、研究を進めた。

**手立て①：**世界の中の日本の国土や世界の国々の位置に目を向けるために、新聞から見つけた世界のニュースから、その国の位置を調べる。さらにニュースのジャンルごとに色分けをし、同じ色のシールを白地図に貼っていくことで、ニュースの分布

図をつくる。分布図を見て、気付いたことを話し合い、発表する。

**手立て②：**国土の気候条件が人々の生活や産業と密接な関連を持っていることに目を向けたり、考えを深めたりするために、単元のまとめにその地方の新聞を使い「読み深め活動」を行う。その地方特有の生活や産業の様子を見つけ、メモに書き留めていく。それをもとに、学習した内容と照らし合わせて新たな発見や気づきについて話し合い、シートにまとめる。

### (7) 抽出児童の設定

**児童A：**普段から読書習慣があり、様々なジャンルの本を読んで読書の幅を広げている。そのため、長い文章を読むことに抵抗がない。日本や世界のニュースに興味があり、普段から新聞やテレビで情報を得ている。一方で、目を通す記事は一面記事が多いため、次の面へ読み進めることはあまりない。本研究を通して、日々の生活で興味を持ったことについて新聞を読み進めたり記事を選んだりすることの面白さを感じられるようにしたい。

**児童B：**ニュースに興味があり、テレビのニュース番組を通して積極的に情報を得たり自分の考えを持ったりしているが「難しいから」「読めない文字が多いから」と、新聞を読むことには抵抗がある。学習した内容を含む記事をたくさん読むことで、新聞記事の面白さに気づかせ、児童の興味や意欲を、新聞を読むことにも広げていきたい。

**児童C：**興味のあることや理解していることであれば、抵抗なく取り組むことができる。普段テレビのニュース番組などで情報を得てはいるが、選ぶニュースもスポーツに限られるなど、興味に偏りが見られる。活字にもあまり親しみがなく「ニュースに興味がないから」と、新聞を手取ることもない。学習した内容についての記事を探すことで、新聞から記事を見つけることの面白さに気づかせたい。

### (8) 検証の視点と方法

①**検証の視点：**社会的事象に興味関心をもつことができたか。国土の気候条件によるその土地のくらしや産業の様子について、新たな発見をすることができたか。

②**検証の方法：**ワークシートに書かれた意見の比較

## 3. 研究の実際と考察

5月に、国語科「新聞を読もう」で新聞や新聞記事の構成を確認する授業を行ってから、研究を進めた。まずは児童が生活の中で新聞と関わる場を持てるよう、学習した内容を活かして新聞記事を探す活動（手立て①）を常時活動として設定した。また、学習内容を関連づけて新聞記事を読むことにより自分の考えが深まることを実感させる活動（手立て②）を行った。

## (1) 実践1 「めざせ！切りぬきで世界一周」

国際ニュースについての記事を見つけて白地図にまとめていく「めざせ！切りぬきで世界一周」活動を行った（資料4）。児童が生活の中で常に新聞記事を意識できるよう、常時活動として行うことにした。

資料4 「めざせ！切りぬきで世界一周」の活動過程

段階	学習活動	指導の手立て及び留意点
導入 (1時間)	<ul style="list-style-type: none"> <li>大きな白地図を作成して教室に掲示し、これまでに学習した6大陸、3海洋、主な国の場所を白地図で確認する。</li> <li>教師の説明を聞き、活動の目的と内容を知る。</li> <li>5色の「ニュースカラー」とその意味を知る。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>自分たちで白地図を作成することで、課題への意欲を高めさせる。</li> <li>国内のニュースやスポーツに関する記事に偏ることが予想されるため、活動範囲を「国外」「スポーツ記事以外」とするよう指導する。</li> </ul>
展開 (常時)	<ul style="list-style-type: none"> <li>国際ニュースに関する新聞記事を見つけ、地図帳でその国の位置を調べる。 (ワークシート)</li> <li>記事の内容から、5つのニュースカラーに分類する。(ワークシート)</li> <li>分類した色のシールを、掲示してある白地図に貼り、分布図を作る。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>家や学校の新聞を使って取り組ませる。</li> <li>2つ以上色が選べる記事は、より近い方の色で分類させる。</li> </ul>
まとめ (1時間)	<ul style="list-style-type: none"> <li>できあがったニュースカラーの分布図から、いま世界でどのようなことが起きているか考え、話し合う。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>シールの多い場所や、特定の色の多い場所に注目させ、特徴を考える視点を与える。</li> </ul>

### ①白地図作り

活動を始めるにあたって、休み時間に有志を募り、白地図を貼り合わせて大きな世界地図を作成した。「わたしたちの国土」で世界の6大陸や3海洋、国名などを学習していた児童たちは「ロシアはもう少し奥だよ」「オーストラリアが隠れちゃった」などと言いながら、真剣に取り組んでいた（写真1）。「こんな大きな地図で何をするの？」と、これからの学習に期待を持った意見もたくさん聞こえてきた。昼の休み時間に限定して活動を進めていたので、完成させるのに1週間ほどかかったが、有志メンバーは日を重ねるごとに増えていった。いつも休み時間には運動場で元気に遊んでいる児童Cも、毎日活動場所へ来て地図を貼り合わせたり裏を補強したりと、積極的に参加していた。



写真1 白地図を作っている様子

## ②ワークシート

新聞には、国際面などに各国のニュース記事が掲載されている。その記事をスクラップして集めておけるワークシートを作成した。資料5にあるように、ワークシートには、見つけた新聞記事をスクラップし、その国の位置

位置を地図で調べて記録できる欄を設けた。児童の知識を新聞記事探しに活かせるように、学習した「6大陸・3海洋」を使って国の位置を記録できる形にした。また、資料6のように、ワークシートに欄を設け、内容に合わせてニュースを5つの色に分類させた。

(国の位置)	にある、(国名)
!大陸・海洋の名前を書く!	

資料5 国の位置を調べて記録する欄

【ニュースカラー】	ふたつ以上に関わっているものは、より近い方を選ぼう。
緑	環境問題・自然・いきもの
赤	争い・戦争・難民
黄	政治・お金・会社
ピンク	日本と関わりのあるニュース
青	文化・くらし

資料6 記事の内容を分類する5つのニュースカラー

児童が呼びやすいよう、この5つの色を「ニュースカラー」と名付けた。分類したニュースカラーと同じ色のシールを白地図に貼っていくこと、たくさんシールを貼って世界一周を目指すことを伝えると、児童たちからは「だからあんなに大きな地図を作ったのか!」「世界一周、できるかなあ」という声が聞こえてきた。家庭で新聞を取っていない児童も多くいたので、学校に毎朝届く新聞を好きに切り取ってもよいことを伝えた。

ワークシートを配布した次の日、6名の児童が記録済みのワークシートを提出しに来了。分類されたニュースカラーのシールを渡すと、児童たちは自分であらかじめ調べてきた国の位置を確認して、白地図に貼っていった(写真2)。シールを貼る児童たちの姿を見て、活動に参加する児童の数も増え、白地図にはたくさんの色のシールが貼られるようになった。その後、教室の後ろに特設のコーナーを作った。ワークシートを置くことで、記事を見つけた際に児童が自由に取り出して使えるようにした。ワークシートの横にはフラットファイルを置き、記録済みのワークシートを綴じていった。



写真2 白地図にシールを貼る様子

6月に大きなテロが立て続けにあったことや、アメリカ大統領選挙、イギリスのEU離脱など、児童の目にもとまるような大きなニュースがたくさんあったため、増えていくシールを眺めて児童と「この地域では赤(争いなど)が多いね」「ヨーロッ



パは黄色（政治など）の記事が多いね」などと話すようになった。

### ③色分け地図から考えよう

2学期になり白地図にシールが集まってきたところで、色分けされた地図を見て話し合う授業を設定した。色の分布を見ながら話し合うことで、国際情勢や社会的事象を目に見える形で捉えさせることをねらった。

まず、シールの貼られている量に注目させ「シールがたくさん貼られている国や地域はどこでしょう」と尋ねた。児童たちからは「ヨーロッパ」「ブラジル」「トルコ」などの答えが出てきた。次に「どうしてその場所はシールが多かったのでしょうか」と投げかけた。児童たちは白地図から、シールの集中している場所に着目し、話し合った（写真3）。多くの児童から出てきたのは「事件やニュースがたくさんあったから」という答えだった。そこで分布図のイメージを広げるために「世界中で毎日、たくさんの事件が起きているけれど、その『事件の多さ』と、『地図のシールの多さ』が同じということかな」と尋ねると、多くの児童が「同じではない」と答えた。理由を聞き返すと「日本に伝わってくるくらい大きなニュースだったのだと思う」「たくさんの記事が集まったということは、どの新聞社もそのニュースに注目しているのではないかな」など、新たな視点での意見が出てきて、色の集中している場所に大きなニュースが集まっていることを確認できた。

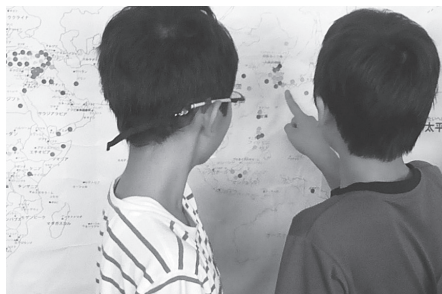


写真3 分布図を見て話し合う様子

その後「その国や地方ならではのニュースカラーを見つけよう」と投げかけた。記事をたくさん集めたからこそ見えてくる、その場所の特色を、児童たちの力で見つけさせたいと考えたからである。

#### 資料7 分布図を見て気づいたことについての話し合い

- T：色分けされた分布図を見て、その場所ならではのニュースカラーを見つけましょう。
- C：トルコは、赤と黄色が多いです。赤は「戦争や争いに関すること」だから、テロのことだと思います。
- C：つけたしで、テロや争いがあったから、トルコの偉い人が話し合って、そこで黄色も増えたのではないかな。
- T：なるほど。赤と黄色には深いつながりがあるようですね。他にも赤と黄色、両方の多い場所がありますか。
- C：アメリカ。アメリカでもテロがあったよ。
- C：少し違って、アメリカで黄色が多いのは、大統領選挙のことも関係していると思います。

資料7にあるように、児童からはまず一番に「テロがあったからトルコには赤と黄色が多い」という意見が多く出された。さらに「テロがあつて、偉い人が話し合った

から政治を表す黄色も増えたのではないかと、新たな意見が出てきたため、他でも同じように赤と黄色が関係していそうな場所はあるかと投げかけた。すると、地図を見なおしていた児童が「アメリカ（も、赤と黄色が多い）」と答えた。そこから「アメリカで黄色が多いのは、大統領選挙のことも関係していると思う」という意見が出て、児童たちは自分の集めた記事をもとに考えを深めていった。

## 実践1での抽出児童の変容

どの児童も意欲を持って取り組むことができていた。中でも抜きん出ていたのが、児童Cの頑張りであった（資料8）。

資料8 「めざせ！切りぬきで世界一周」  
ワークシート提出枚数

(2016年5月から9月)

児童 A	児童 B	児童 C
6 枚	7 枚	10 枚

活動後の感想から、児童Cにとっては  
シールを貼ることが活動意欲につながり、

楽しんで活動が続けられたことが読み取れる。シールを使用することで、ニュースカラーを見やすく分布させるだけではなく、普段活字に親しみのない児童にも楽しんで活動に参加させることができた。

児童Bは、切り抜いた記事にいつも一言感想を添えて提出していた。最初「フィンランドの子育ては親に優しい子育てでした」「400年も生きるサメがいるなんて、すごいと思いました」など、記事の内容について書いていたが、だんだん「バン格拉ダシュに続いてイラクでもこういうテロが起きると、本当にテロっていやだなあと感じます」「サウジアラビアでよく原油がとれるとは聞いていたけど、アメリカにはそれをこえるほどの原油があるんだなと思いました」など、他の国の情報を交えて感想を書くようになった。活動後の感想には「今まで新聞を見ていなかったけど、この授業で少し関心を持つようになりました」とある。もともと社会的事象に興味のあった児童

## 資料9 活動後の抽出児童の感想

児童Cの感想

最初たのしいのかなと思いがちで、でもだんだんたのしくなってきたのでいっぱい作りました。シールをいっぱいはって置いておけるのが色のシールをはることでたのしかったです。

児童Bの感想

地図にシールがはってあるのを見るとこわいような事件もしくは問題があったのが一瞬うかんできました。新聞にはテレビ放送されないような事件ものもいたのですが新聞の方が多かったです。今まで新聞を見ていたけれど、この授業で新聞に少し関心を持つようになりました。

児童Aの感想

最初この活動を始める前、一面ばかり気にしていたけど、うらの方までさがしているのと興味のある記事があり、なるほどと思う事かうえました。地図を見ると集中的にシールが集まっている所と全然ないところとの差があり、少しびっくりしました。さがしているは楽しかったんで、この活動は面白かったです。



童Bが、新聞を読むことで、さらに興味や知識を広げていったことが読み取れる。

児童Aの感想には「裏の方まで探していると、興味のある記事があり、なるほどと思うことが増えました」とある。一面記事しか目にする事のなかった児童Aが、新聞を開いて読み進んでいく習慣がついてきたことが読み取れる（資料9）。

## (2) 実践2「北海道の新聞から、その地方ならではの特色を見つけよう」

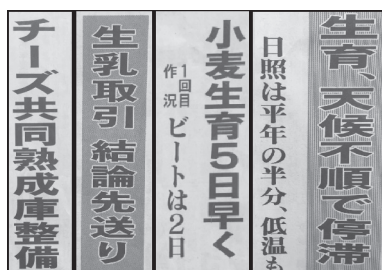
「寒い土地の暮らし」では教科書を中心に学習を進めた後、学習のまとめとして、その土地の新聞を利用した活動を設定した（資料10）。全国紙に比べ、その土地の新聞には、より詳しくその土地についての記事が書かれ、児童の関心も高まるはずである。学習した教科書の内容と関連づけながら記事を読み深めることで、その土地での暮らしや産業の様子についてさらにイメージを広げられるようになると考えた。新聞は「十勝毎日新聞」と「北海道新聞」の二紙を、それぞれ一ヶ月分用意した。

資料10 単元の学習内容と流れ

第1時	北海道十勝地方の気候と家のづくり・暮らしの工夫について
第2時	北海道十勝地方の自然を生かした農業の工夫について
第3時	北海道十勝地方の、寒さを生かす取り組みについて
第4時	北海道で受け継がれてきた、アイヌ文化について
↓	
第5・6時	北海道ならではの新聞記事を探そう！
第7・8時	「寒い土地の暮らし」の学習を生かして、新聞を読み深めよう！

### ①第5・6時「北海道ならではの新聞記事を探そう！」

クラスを8つの班に分けて、「北海道新聞」「十勝毎日新聞」を各2部ずつと付箋を配布し、「北海道ならではの記事を探し、付箋をはっていこう」と投げかけた。最初、児童たちは新聞記事の内容を読み取れず、記事を見つけることに苦戦していた。そこで、まずは記事の内容ではなく見出しに注目して記事を探すことにした。その後、児童たちは北海道の地名に着目して見出しを探し始めた。しかし、その方法では、その土地で起こった事件や事故についての記事しか見つからなかったため、今までに学習した内容に沿ってキーワードをもう一度確認した。すると、最初に「小麦についての記事がある！」と声が上がった。記事のあった「十勝毎日新聞」は帯広・十勝地方に配られている新聞である。そこには十勝地方の主要産業である、農業に関する記事が多く掲載されている（資料11）。農業についての記事がたくさん見つかったので、「十勝毎日新聞」から農業に関する見出しを探す児童の組と、「北海道新聞」から他の分野の見出しを探す児童の組で、手分けして探せるよう、さらに班を2つに分けて調べることにした（写真4）。



資料11 「十勝毎日新聞」一面記事



写真4 見つけた記事に付箋を貼る様子

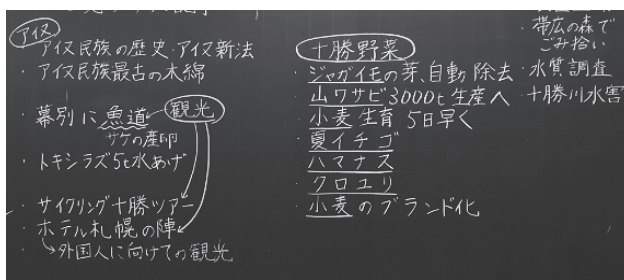
難しい言葉を辞書で調べさせたり、内容の補足説明をしたりしながら机間指導を行った。中には「新聞のタイトルに牛がいる！」と見つけた児童もいて、「他の絵は何だろう?」「教科書に載っていた『てんさい』じゃない?」と、今までの学習を活かして話し合う様子も見られた(資料12)。

その後、付箋を貼った記事の見出しを黒板に集約し、「見つけた見出しから見えてくる『北海道の暮らし』について考えよう」と投げかけた(写真5)。児童からは「北海道は農業が盛ん」「北海道には外国からたくさんの観光客が来る」「他の都府県に比べて農業や環境に気をつけている」「北海道にはアイヌの歴史が残っていて、それを北海道の人も大切に守っている」などの意見が出た。



資料12 新聞のタイトル

写真5 見つけた見出しの板書記録



## ②第7・8時 「寒い土地の暮らし」の学習を生かして、新聞を読み深めよう！

前時に付箋を貼った「北海道ならではの」の記事を使って、前時と同じ班での読み深め活動を行った。具体的に教科書と照らし合わせながら記事を読むことで、児童が自身の知識を活かしながら、その知識を広げ、深めていくことをねらった。ワークシートには、教科書の内容を書き込める「活かした学習」という欄を作成し、教科書の本文から、記事と同じ言葉や内容が書かれている部分を抜き出して記せるようにした(資料13)。

具体的に文章を抜き出すことで、記事にある言葉の意味や事象の背景を、教科書で確認しながら記事を読み深めることができると考えた。「疑問・ひらめき」欄には、新聞記事と教科書を照らし合わせて浮かんだ新たな疑問やひらめきを記せるように

資料13 教科書と記事を具体的に照らし合わせる欄

見つけた記事の見出し	活かした学習	疑問・ひらめき
「	教P の	

し、小さな発見も形に残すことをねらった。

前時の付箋を貼っていく段階で、ある程度の読み取りができていたので、児童はこの活動にスムーズに取り組み始めることができた。最初に、A班、B班を含む3つの班がアイヌ民族についての記事に注目し、話し合っていた（資料14）。

資料14 アイヌに関する記事から考えを深めていた班

記事の見出し	活かした学習	疑問・ひらめき
「新法19年めい」 道ア保協方針 A班	教P59の。 「アイヌ文化を受け つぐ」	教科書にも新聞に 文化を受けつぎたい。 と書いてあったことが わかりました。
「アイヌ民族最古の 木綿衣」 B班	教P58の 本州やロシアなどと交流して、 糸苧や木綿糸、しきなどを入 れ込んでいました。	昔、アイヌの人たちがロシア の人たちと交流して、手に 入れた 糸苧を使った、木綿 衣が今も残されていたので、 文化を大切に心がけね てきた。

B班は第4時に学習した内容から、本州やロシアとの交易の中でアイヌの人々が木綿を手に入れていたことを見つけて「アイヌ文化を大切に残していく」という考えに行き着くことができた。厳密に比べると、教科書に記載されている「アットウシ」は樹皮衣であり、記事で紹介されている木綿衣「ウルンペ」とは作られた時代が違うので、解釈がすべて正確だったとはいえない。しかし、記事と教科書から「交易の民」と言われているアイヌ民族の文化や、その文化を残そうと努力している人たちの思いについて、児童たちの力で考えを深めることができていた。

また、「熱気球『面白い』」「羊の毛刈り」「サイクリング十勝ツアー 自転車快走」「ふれあい農園利用900人」といった、十勝で行われたイベントの記事を関連づけて、自然条件を生かした取り組みについて考えを深めるC班やD班などの班も多かった。C班では、サケが遡上・産卵できる「魚道」を整備して観光資源の再生を図るという「魚道構想」についての記事から、自然条件を生かした取り組みについて考えを深めていた（資料15）。

さらに、E班の話し合いでは、「寒い土地の暮らし」より前に学習した「高い土地の暮らし」の内容と関連づけて、多角的に記事を読み深めることができていた。「夏イチゴの生産 本格化」という記事を見て児童がつぶやいた「夏イチゴって普通のイ

チゴと何が違うの？」という疑問から「イチゴは春にできるのに、夏にできるから夏イチゴって呼ばれていると思う」「北海道は『夏もすずしい』って教科書に書いてあるから、前やったレタス（長野県の高原野菜）みたいに、他と収穫時期をずらして作っているんじゃない？」と、次々と意見を出し合っていた（資料16）。

記事の見出し	活かした学習	疑問・ひらめき
幕別便りに魚道 構想 C班	教P56の 「十勝地方の寒さを 生かす取り組み」	寒いところにはサケが いるのを盛がして サケせんこの道で ついて観光にして いると思える
海外観光客取り込め D班	教P56の2行目 「自然を生かしてみんなで 楽しもうという気持ち」	とれいとはちかい北海 道の自然を生かして観光 客を楽しませている

資料15 「自然を生かした取り組み」について考えを深めていた班

記事の見出し	活かした学習	疑問・ひらめき
夏イチゴ生産林 E班	P54の2行目 夏のすずしい気候	イチゴはすずしいとき にたくさんできるでし ょうが、それはすずしい ので高原野菜と 同じではないか？

資料16 「夏イチゴ」について考えを深めていた班

## 実践2での抽出児童の変容

第5・6時の感想を見ると、児童Aは「初めて知ることも多く」、児童Bは「北海道にはまだまだ知らないことがありますだなと思いました」、児童Cは「みのがしているのがあったので家で新聞をよんでなれないと」など、どの児童も新聞の内容を読むのに苦労していたことが読み取れる。

児童A どうもすずしかたです考える事も多くなり意見が たり初めで知る事多く勉強になったな。と実感 しました。	じょうず北海道の事を知ったのは大まかにたっけ 新聞では1つの事でたくさん知れて とても楽しかったです自分の意見 もありこれから興味を いきたいと思います。
児童B 北海道にはまだまだ知らないことがありますだなと 思いました。なんでも話し合いでほうまいったこと うまいかなたことあったからこれからどうすればいいの が考えてみようと思います。	新聞と教科書の以ていると3つを照らしあわせて新 発見が3つありました。新聞には、その地 の特色を生かした産業やくらしのニースが ありました。
児童C 新聞の月1記事を読みつけるとは、ほんとに でも1313までとてみのがして1313が ので家で新聞P56をよんでなれないしやべ と思ひました。	ほんとに北海道の気候や季節の愛知 とのかれりかたがわかりました。

資料17 第5・6時から第7・8時の、抽出児童の感想の変容



しかし、教科書と関連づけて読み深めた第7・8時の感想では、児童Aが「授業で北海道のことを知ったのは大まかにだったけど、新聞では1つのことでたくさん知ることができ」、児童Bが「新聞と教科書の似ているところを照らし合わせただけで、新たな発見をすることができました」、児童Cは「北海道の気候や季節の愛知県とのちがいがよくわかりました」と記している（資料17）。どの児童も、学習した内容や教科書を使って自分なりに実感を持って新聞を読み深めていたことが読み取れる。

## 4. 研究のまとめ

### (1) 仮説の検証——手立て①について

最初のアンケートで、一面より先に読み進めることのなかった児童Aも、新聞を手にとることがなかった児童Bも、世界のニュースに関する記事を集めることにより、普段読み逃してしまっていた記事に、自身の興味のある内容が記されていたことに気づくことができた。また、普段流し読みをしていた記事でも、世界地図の中から記事にある国を探すことで、児童のもっている知識を活かした読み方へと変わり、児童の興味に広がりが見られた。このことから、児童が社会的事象に興味をもつために手立て①は有効であったと考える。一方、児童Cは積極的に活動に参加していたが、「シールのために記事を集める」活動になってしまい、目指していた「学習を活かして記事を探す面白さ」を感じるまでには至らなかった。社会的事象へ興味関心のない児童が新聞記事に親しむという点では、課題が残ったといえる。

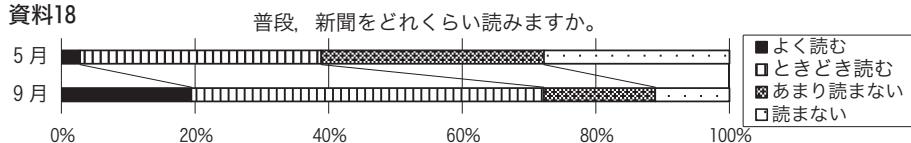
### (2) 仮説の検証——手立て②について

教科書で学習した地方で実際に使われている新聞を教材として取り扱うことにより、児童たちはその地方の暮らしを実感として捉えることができた。また、教科書の内容と照らし合わせて新聞を読み深めることにより、「自然条件を生かした取り組み」や「アイヌ文化の継承」など、的をしぼって考えを深めることができた。その土地の暮らしについて、自分たちで新たな発見をすることができたので、新たな興味関心にもつながった。このことから、単元のまとめに、その地方の新聞を使う「読み深め活動」は、国土の気候条件が人々の生活や産業と密接に関連を持っていることに目を向けるために有効であったと考える。

一方で、新聞の読み取りについては、教師が内容を補足して説明しなければ読み進めることのできない児童が多くいた。学習していない漢字が多く、内容も子ども向きではないため、良い記事があっても児童が気づかないまま流し読みされてしまうこともあった。児童が日常的に新聞を活用していくには、教師や周りの大人が児童の興味関心に寄り添い、支援していくことが必要不可欠であるといえる。

### (3) 実践1・2を終えて

資料18

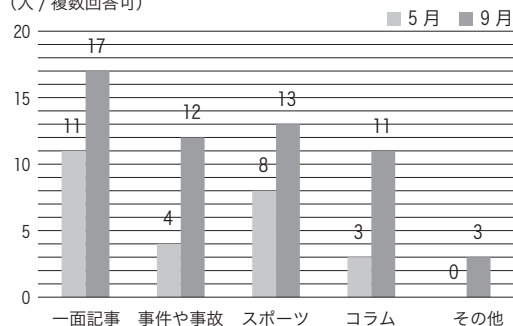


5月に行ったアンケートと同じものを児童たちに実施した。2つの結果を並べてみると、資料18にあるように、普段新聞を「よく読む」「ときどき読む」と答えた児童は、当初全体の39%だったのに比べ、72%と大幅に増えたことがわかった。これは、活動を通して自分たちの知識を生かして読むようになった児童が新聞を読むことに慣れてきた結果であると分析する。また、一面記事ばかりだった児童の選ぶ記事に関するアンケートでも、9月にはそれぞれの興味によって選ぶ記事に広がりが見えてきた（資料19）。本研究を通して、社会的事象への関心と、児童の考えの深まりには大きな関係があることを改めて感じた。メディアを活用しながら興味を広げたり疑問を解決したりする中で、児童がより豊かな考えを持っていけるよう、今後も支援の仕方を探っていききたい。

資料19

普段、どんな記事を読んでいますか。

(人 / 複数回答可)



## 謝 辞

本論文を作成するにあたり、日々温かく見守ってくださった、尾張旭市立瑞鳳小学校・チーム瑞鳳の諸先生方に感謝申し上げます。特に、水谷茂樹校長、千田正弘教頭、教務主任の小野田勲先生には、熱心なご指導をいただきました。心より感謝いたします。また、校務主任の岩下徹先生には、研究を始めるにあたって多くの知識を授けていただきました。深く感謝申し上げます。研究を進める中で、授業に楽しんで参加し、素敵な気づきをたくさん出してくれた、尾張旭市立瑞鳳小学校平成28年度5年1組のみなさんにも、お礼を申し上げたいと思います。

## 参考文献

小学校学習指導要領解説 社会編（文部科学省 平成20年8月）

「誰でも新聞活用」（読売教育ネットワーク2016年4月）

寺尾健夫「主体的・自立的に考える子どもを育てるNIEカリキュラム開発の視点と小学校における開発事例」（福井大学教育実践研究 2013 第38号）